

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

激動する社会の変化に他者と協働しながら、自らの個性・課題を発見し解決する能力を磨き続けることができる、新しい時代を切り開く人材を育成する学校

- 1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、生徒の希望する進路実現を図る
- 2 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育む
- 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り地域から信頼される学校づくり

2 中期的目標

1 教育活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む

(1) 確かな学力の育成と授業改善

- ア 1人1台端末、ICTの活用により、個別最適な学びの実現を図る
- イ 教員間の授業研究による授業改善の推進
- ウ 論理的な思考を深める機会や意見を述べる機会を設定し、学力の充実を図る
- エ 一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援の充実

※ 学校教育自己診断「論理的に文章をまとめる力を身につけている」の肯定的評価を令和8年度には80%にする (R3:72% R4:79% R5:78%)

※ 学校教育自己診断「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価を令和8年度には85%以上を維持する (R3:81% R4:87% R5:88%)

(2) 希望する進路の実現を図る

- ア 「総合的な探究の時間」においてSDGsの課題解決に向けた探究活動や生徒自身の興味関心を掘り下げた探究活動の実施
- イ 生徒の多様な進路選択に応えるキャリアガイダンス(進路指導)の充実
- ウ 進路に関する情報提供の充実
- エ 資格取得や各種コンクールへの応募などの推進
- オ 家庭学習の充実(勉学と部活動の両立)
- カ 英語4技能(特に聞く力、話す力)の充実を図る

※ 国公立大学、有名私立大学(関関同立)の現役進学率を令和8年度に40%以上にする (R3:37% R4:28% R5:39%)

※ 学校教育自己診断「進路についてのアドバイスをよくしてくれる」の肯定的評価を令和8年度85%以上を維持する (R3:88% R4:86% R5:84%)

※ 学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」を令和8年には75%以上にする (R3:68% R4:67% R5:70%)

2 豊かな人間性の育成

(1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む

- ア 情報リテラシーを高め、SNS等によるいじめやハラスメントを防止する

(2) 全ての教育活動においてSDGsを意識し、グローバル社会に対応できる人材の育成を図る

(3) 部活動や学校行事の充実を図り、より一層、達成感や充実感を高める

※ 学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価を令和8年度に90%を維持する (R3:85% R4:87% R5:90%)

※ 学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」の令和8年度に肯定的評価90%以上を維持する (R3:89% R4:92% R5:96%)

※ 部活動加入率90%の維持 (R3:91% R4:91% R5:96%) 学校行事への満足度を令和8年度に90%以上を維持する (R3:97% R4:96% R5:98%)

3 地域から信頼される学校づくり

(1) 学習活動や部活動など、地域との連携活動を推進する

(2) 広報活動を充実させ、学校の教育活動をこまめに発信する

(3) 業務の精選と学校組織(教員体制、運営方法等)の再構築により、働き方改革を推進する

(4) 安全・安心な学校生活を送れるよう危機管理を行う

- ア 食物アレルギー事故防止のために組織的に対応する

- イ 熱中症及び感染症等の予防に努め、誰もが適切な対応ができるようにする

※ 学校教育自己診断の保護者の情報発信についての満足度の肯定的評価を令和8年度に90%にする (R3:90% R4:86% R5:87%)

※ 学校教育自己診断の「先生たちはお互いによく協力し合っている」の肯定的評価を令和8年度に90%を維持する (R3:87% R4:90% R5:89%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】</p> <p>国際交流関係については昨年度より再開し、8月にオーストラリア夏期研修を実施、台湾姉妹校交流については12月に永春高校の来日と本校からの台湾訪問ができ、多くの学びに繋がった。生徒の評価は90%と昨年度よりさらに上昇し、次年度は参加者がさらに増え本事業を盛り上げてくれることを期待。</p> <p>昨年度より肯定率が向上した設問の割合は、生徒90.7%、保護者44.2%と昨年度の上昇率より高い値を示している一方、教員25.6%と昨年度の上昇率から低下した。全項目の(肯定回答)平均においても生徒89.4%、保護者75.0%と昨年度に比べ4~6ポイント上昇している一方で、教員では肯定率が教員82.4%であるものの29項目において昨年度と比べ3ポイント低下した。特に進路指導や生徒指導などの日々の指導に対して相談できる環境についての評価が低下していることから、日々多くのことに対応する中で教員同士が相談できる時間や環境が十分でないことが窺える。教育をつかさどっている教員に少しでも余裕ができる環境づくりは急務と考</p>	<p>【第1回 令和6年7月10日(水)】</p> <p>▶本年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革として、先生方の部活動指導はどうなっているか。中学校では、土日の部活動指導は切り離し、外部指導員で行っているところもあるときいているが、高校ではどうか。 →部員が少ない学校間をペアリングして、A高校の生徒がB高校に行き、一緒に部活動をする。その際、A高校の教員は付き添う必要がない、といった大阪モデルという取り組みがある。 ・部活動の外部指導員はもっと増やして欲しい。指導者がいることによって、子どもたちのモチベーションアップにもつながる。PTAができることは、お金の援助をすることぐらい。 <p>▶学校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北千里生を育成するにあたって 将来構想検討委員会からの発信。北千里高校として、どのような生徒を育てていくのか、教員一同このようなことをめざして取り組んでいる、という方針を、入学式

える。また、保護者からも「保護者懇談などで先生方に率直に意見を伝えることができる」が78%と昨年度より5ポイント減となっており、学校と保護者が一層連携を取りながら教育活動を進めていく必要あり。

【学習指導等】

「学校に行くのが楽しい」91%「行事(修学旅行・体育祭・文化祭ほか)には楽しく参加している」97%「授業はわかりやすい」86%といずれも高評価を得た。「生徒1人1台端末を効果的に活用している」94%「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」91%「先生は教え方に様々な工夫をしている」90%と高く、ICT機器などを活用した授業がほぼ定着している。また、学校全体で授業改革に取り組み、教員が研修や相互の授業見学及び研究授業などを通じて、課題の共有化に努めている。「家庭での学習」については保護者・生徒ともに評価が81・73%と伸びてはいるものの、家庭学習量についての保護者の肯定的評価は41%と相変わらず低く、現在単なる宿題とは異なる家庭学習の在り方を改善すると共に学力向上の取り組みを進めている。数学の少人数展開指導においては、担当者を絞り生徒の躓きについて共有し指導したことで、すべての項目において昨年度の肯定的評価の割合をはるかに上回り、学習意欲が向上し理解度が上がっていると思われる。

【進路指導】

昨年同様、「将来の進路や生き方について考える機会がある」96%、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」94%と高評価である一方、保護者では「進路についての情報を様々な資料で知らせてくれる」67%と、昨年度より高いが、低い数値。「探究の授業や出前授業などを通じて様々な講師の話を開けて進路を考えるきっかけとなった」が88%と高評価を得ており、『キャリア教育の充実』が生徒の満足を得られる形で実施されている。進路指導において情報提供だけでなく、生徒自身が様々なことを自分事として捉え進路実現に向かう力の醸成が、予測不能なこれからの時代に向けて益々必要である。

【生徒指導等】

生徒の「主体性」を育む方針から、時間はかかり困難なことが生じるけれど、生徒自治を大切にきた指導を行ってきた。「体育祭や文化祭の行事に楽しそうに参加している」100%と高く、「家庭や学校での基本的な生活習慣について自分なりにできている」82%、「校舎内の清掃は自分たちできれいにできる」88%と、少しずつではあるが、自主自律の意識が向上してきている。また、「生徒指導の方針」については保護者・生徒・教員ともに71・87・74%と向上しており、「生徒指導の方針」について全体に周知するだけでなく、生徒の意見を取り入れながら共に学校を創っていく意識改革の下、ルールを見直してきた。何事も管理する体制から生徒自身が「自分事」として捉え、「考え」「行動」でき、「他人への配慮」ができる力をつけていくためにも今後も対話は必要である。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が94%、「人権の大切さについて学ぶ機会がある」97%、保護者では「学校の雰囲気が良く生徒たちが生き生きとしている」88%と昨年度を上回り、日頃から学校と保護者とが連携して学校生活の充実に努めている。

【地域連携】

例年実施してきた地域交流は、今年度も様々な形で展開した。授業では地域の幼稚園や高齢者施設との交流を実施した。また、探究の授業では「北千里のまちづくり」について地域と連携した取り組みを実施し、近隣小学校での部活動交流や教員の出前授業など、生徒が「主体」となった事業を展開した。「地域と連携した特色ある取り組みがある」85%と昨年度より19ポイントと大きく向上しており、生徒自身の自己肯定感や実行力の醸成に大きな役割を果たしている。地域連携を次年度に向けて振り返り、再構築していく。

本校教職員も様々な場面で相互の連携を図りながら「チーム北千里」として、日々生徒の指導に取り組んでいる。今回のアンケート結果を踏まえ、教職員一同、本校教育の一層の充実に努めていきたい。

の際に、生徒と保護者に示していくべきだという考えに賛同する。

・国際交流について

国際交流や地域交流では、活発な生徒が色々経験をし、そうでない生徒と格差ができてきているのでは。

→普段活発でない生徒も一部強制されてやることにより、色々な経験をすることもできている。

➤質疑・意見交換および提言

授業が大事という話があったが、時間がない中で、研究授業等は行っているのか。→他校では初任研や10年研を研究授業として行っているが、本校では、それと合わせて、将来構想検討委員会が、6月・11月を授業見学月間とし、自由に他の先生の授業を見る機会を作っている。また、11月には公募で研究授業・研究協議を行っており、かなり多くの先生方が見に来られている。

➤令和6年度学校経営計画及び令和7年度使用教科用図書選定について承認。

【第2回 令和6年11月27日(水)】

➤質疑・意見交換および提言

・SDGs探究発表会に、地域の方々を招くことは可能か

→合同探究を行った業者の方々や保護者にも来てもらうので、地域の方々の参加も一定数であれば可能。

・探究活動の入試への影響

探究型入試が増加傾向。発表の機会が受験において重要な役割を果たす。

・社会とのつながりを感じる体験の重要性

生徒が社会を実感できる活動は、受験勉強や将来にも役立つ。

・学校経営計画の「教員同士がICTによって繋がる。」とはどういうことか

→ICT研修を通じて教員同士の連携を強化。

・不登校やいじめの問題はあるか

→教育相談担当や支援委員で原因分析と支援策を検討しているが、不登校生徒が増加していることが今後の課題。

【第3回 令和7年2月28日(金)】

➤本年度の学校経営評価及び次年度の学校経営計画について

・時間外労働時間が80時間超となる教員の数を0にする具体的な取組は？

→平日、校内にいる時間を減らす。そのためにも、部活動の付き添いはできるだけ分担をする。まずは平日の勤務をいかに減らしていくかを検討していく。

・小高交流をさせていただいたのは本当にありがたかった。普段、小学6年生は低学年の児童の面倒を見る立場であるが、この交流中は面倒を見てもらう側として参加ができ、大変喜んでいる様子が見受けられた。このような異世代交流ができたことは児童たちにとってすごく良い経験となった。

・学校に1人はICTに長けている人が常駐してくれると本当にありがたい。それは小も高も同じこと。

・PTAとしては、先生方との交流の機会・時間をもっと設けてもらいたい、平日だと保護者が集まりにくく、休日だと先生方の負担となるので、これからもその機会・時間を設けることを模索していきたい。

・最近、大学の授業でもディスカッションや発表の機会が増えている。それに対して、すごく慣れている生徒もいればそうでない生徒もいる。それは、高校までに自分が情報の発信者になる機会があるかどうかによるとと思われる。

➤学校経営計画について、承認された。(欠席委員は別途確認済)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 教育活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む	(1) 確かな学力の育成と授業改善 (2) 希望する進路の実現	ア 1人1台端末、ICT活用等により個別最適な学びの実現を図る。そのための校内組織を活用した研修を実施し、教員同士がICTによって繋がる。 イ 学力向上の組織を再構築し、授業改善に努める。相互の授業見学の機会を設定し、課題を共有化する。 ウ 思考力、判断力、表現力や学びに向かう姿勢が培われような課題設定を行うために、教科会の充実を図る エ 経済的理由等で修学困難な生徒に対し、様々な面でサポートする。 様々な教育活動の中で ① 外部評価を得る機会の設定 ② 資格取得の推進 ③ 探究活動の充実を図り、進路選択のモチベーションを高める。 ④ 自学自習の推進（様々な学習支援クラウドサービスや教員の配信する課題を効率的に活用し、基礎学力の定着を図る） ⑤ 大学や企業等の外部機関との連携に積極的に努める。 ⑥ 必要な情報を生徒自身が収集し自他の責任と義務について理解する指導に努める。	(1) ア) 学校教育自己診断(生徒)「タブレットが活用されている」89%維持[89%] (教員)「ICTを活用した授業を行っている」95%維持[95%] イ) 授業見学週間の設定2回[2回] ウ) (教員)「指導内容について教科内で話し合う機会がある」100%[91%] (生徒)「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」90%[88%] (生徒)「論理的に考える力が身についた」80%[78%] エ) 修学・進学に関する必要な学資についての手続きをサポートし、必要であれば、SC及びSSWとの連携も図っていく。 (2) 教育活動の中で外部評価や外部のコンクール、作品応募、地域連携などを推進する。 2年次までで英検準2級、2級取得者の目標を150名とする。 (生徒)「探究活動によりSDGsについての課題意識が高まった」80%[78%] (生徒)「家庭での学習時間を確保する」70%以上維持[70%] (生徒)「進路や生き方について考える機会」90%維持[90%]	(1) ア) 生徒の活用はどの場面でもうまくできているが、電子黒板の導入など、新たな機器の活用について共有化し繋がることに課題がある。 学校教育自己診断(生徒)「タブレットが活用されている」94%(◎) (教員)「ICTを活用した授業を行っている」92.5%(△) イ) 授業見学週間を6月11月の2回実施。相互の見学がさらに活発になるよう、検討中。(○) ウ) 日々扱う業務が山積し、各教員が対応する中で、評価の在り方、指導の在り方等、各教科内での共有に時間を割くことが年々厳しくなっており、各個人の力量に頼っている面は否めない。 (教員)「指導内容について教科内で話し合う機会がある」84.9%(△) (生徒)「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」91%(◎) (生徒)「論理的に考える力が身についた」85%(◎) エ) SC及びSSWと学校側の連携を図りながら生徒の自己実現、進路実現に繋げている。(○) (2) 探究活動において、地域の課題に取り組み、昨年度以上に地域と連携した発表を1、2年生で実施。多くの課題に向き合う経験ができた。また、2年次までで英検準2級、2級取得者は198名。(◎) (生徒)「探究活動によりSDGsについての課題意識が高まった」81%(◎) (生徒)「家庭での学習時間を確保する」73%(◎) (生徒)「進路や生き方について考える機会」96%(◎)
2 豊かな人間性の育成	(1) 人権教育の充実 (2) グローバル社会に対応できる人材の育成 (3) 部活動、学校行事の充実	・ワークショップ型や当事者による問いかけなど、自分事として捉える人権教育の充実を図る。 ・SDGsを意識した教育活動を展開する中で、生徒が国際社会の一員として主体的に行動するための態度・能力の基礎を育成するよう、学校全体で取り組む。 ・国際交流の推進を図る。 ・部活動による人間関係力の育成や生徒自治を充実させ、生徒が主体となって学校行事の運営ができるよう生徒たちを支え、思考力、判断力、実行力など生きる上で必要な力を育む	(1) ワークショップ形式の研修や当事者との交流など、体験し肌で感じる人権教育の実践 (生徒)「人権の大切さについて学ぶ機会がある」96%維持[96%] (2) (生徒)「SDGsの課題意識が深まった」80%[78%] (生徒)「国際理解を深めることができる取り組みがある」80%以上維持[81%] (3) 部活動加入率を96%維持[96%] 生徒が主体となる行事の運営 (生徒)「学校行事が楽しい」95%以上の維持[98%]	(1) 教員生徒ともに人権ワークショップを実施。「自分と仲間を大切にできる人」「気づき・考え・行動できる人」を目標に掲げ研修を実施。他者理解、国際感覚を感じることができた。研修実施回数：生徒8回、教職員2回(生徒)「人権の大切さについて学ぶ機会がある」97%(◎) (2) 特に1、2年生において3学期に探究活動発表を実施。今後内容の精選が課題。 (生徒)「SDGsの課題意識が深まった」81%(◎) オーストラリアへの語学研修に24名が8月に、台湾姉妹校交流を12月に実施し、来日24名・訪問20名が参加。 (生徒)「国際理解を深めることができる取り組みがある」90%(◎) (3) 年々新入生の部活動離れが気になる。本年度の加入率96%(◎) 生徒が主体となる行事の運営を修学旅行や生徒会行事など様々な場面に創設した。 (生徒)「学校行事が楽しい」97%(◎)
3 地域から信頼される学校づくり	(1) 地域との連携活動の推進 (2) 広報活動の充実 (3) 働き方改革の推進 (4) 危機管理	地域の行事に積極的に参加し、日頃の教育活動を発表したり、地域の方々から評価を受け、共に育ちあう機会を作る。 学校見学会やHPを通じて、学校の特色を発信する。 業務の精選と学校組織の再構築を推進する。 毎月、時間外勤務の多い職員に月の途中で声掛けを行い、働き方改革を推進する。 特に、部活動方針の遵守を確認する。 情報の共有が適切に図られることを意識して、危機管理に取り組む。	(1) 地域参加の機会を推進し、地域の中で果たす役割を認識する。 ・吹田市のイベント ・学校間交流 ・ボランティア活動の推奨(夏季休業中など) 「地域と連携した特色ある取り組みがある」70%[66%] (2) 学校見学会(3回) Webを活用した広報活動の実施 (3) 時間外労働時間が80時間超となる職員の延べ数20名以下[20名] (4) いじめ対策委員会、食物アレルギー対応委員会などの危機管理に関する委員会を定期的に開催する	(1) 以下の活動に参加した。 ・吹田市のイベント(チャレンジデー、ペットボトルロケット大会) ・地域商業施設のイベント ・箕面支援学校、吹田市立藤白台小学校との交流 ・クリーン作戦(吹田市のアドプトロード(府道)) ・吹田市社会福祉協議会主催の高齢者スマホ教室ほか 地域からは大きな期待が寄せられている。 「地域と連携した特色ある取り組みがある」85%(◎) (2) 学校見学会は予定通り3回実施。生徒が発信する形を模索中(○) (3) 時間外労働時間が80時間超となる職員の延べ数19名(○) (4) いじめ対策委員会、食物アレルギー対応委員会はそれぞれ年4回、支援委員会は月ごとに開催し、機会あるごとに情報共有や服務・コンプライアンス・ハラスメント等の綱紀保持について共通理解を図った。しかし対応が後手に回るケースもあるため、今後は意識の醸成に努める。(○)